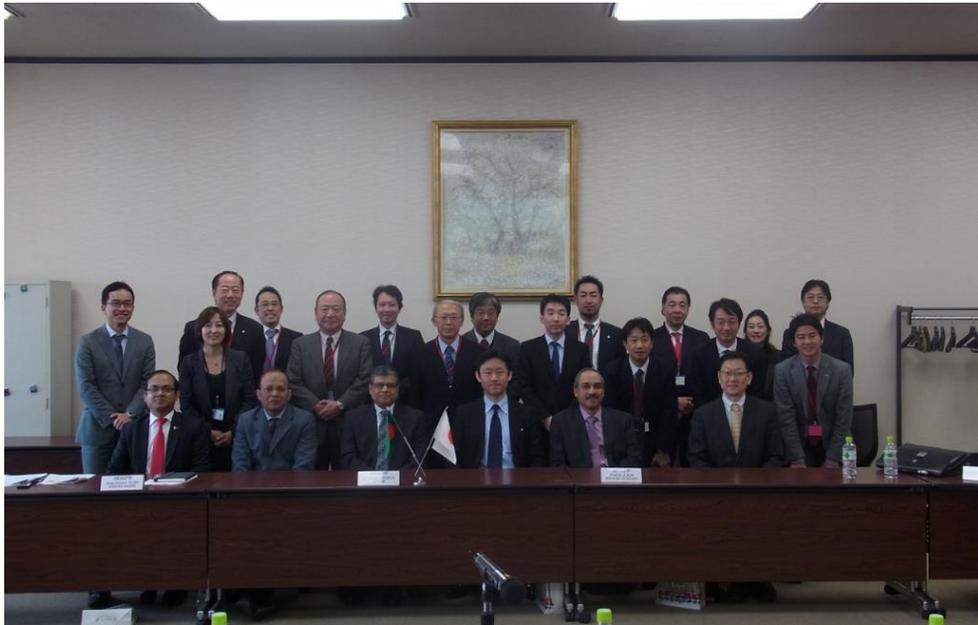


バングラデシュ 官民ミッション

2016年2月



ラウンドテーブルディスカッション集合写真

バングラデシュでは感染症が依然として多い状況だが、近年生活習慣病の増加に伴い、その予防のニーズが高まっている。また、JICAが7つの行政区主都市の医科大学に画像診断センターを設立する事業を進めている。

これらニーズ、画像診断拠点拡充が図られている現状を踏まえ、医療行政の要職につくバングラデシュ政府幹部を招き、日本式予防医療システムの紹介、人間ドック体験を通し、日本の医療機器、サービスの国際展開へ繋げることを目的とし、招聘イベントを開催した。

- 日程：2016年2月4日～5日(2日間)
- 都市：東京都内
- 参加企業(ABC順)：

富士フィルム、フジキンソフト、日立、アイテック、コニカミノルタ、日本光電、PSP、島津製作所、シップヘルスケアグループ、シスマックス

ラウンドテーブルディスカッション



ラウンドテーブルディスカッションの様子

吉本調整官、山本理事長の挨拶に続き、保健家族福祉省(以下MOHFW)イスラム次官が挨拶。バングラデシュ独立以来の日バ友好関係、長きに渡るODA援助への謝意を示された。但し、ODA援助だけでなく、グリーンホスピタルによる病院設立プロジェクトの例を引き合いに、JV、PPPの枠組みでの日バパートナーシップ拡充への期待を強く示された。

笹子室長によるMETI医療国際展開の取組の後、人間ドック学会鍋木先生が日本の予防医療について講演、イスラム次官から、笹子室長、鍋木先生のご講演により、予防医療の重要性を改めて啓蒙されたとの発言があった。

JICA表敬訪問

入柿理事を表敬訪問。バングラデシュ側からJICAのODAへの謝意が示された。また、保健分野の予算が少ない中で効果を上げ、ODAミレニ

2015年度バングラデシュ官民ミッション 招聘イベント開催

アム開発目標(MDGs)を時期前倒しで目標達成したことが報告された。医療機器ベンダーからの保守・メンテナンスについて課題があることへの言及があり、機器メンテナンスをベンダーに頼らずできるような体制を作りたいとの意向が示された。についてはJICAによるトレーニング面での支援に期待が示された。7つの画像診断センターの設立が進んでいるが、同様の支援をすべての大学病院に広げてほしいとの次官要請に対して、JICAはまずは現在進行中のプロジェクトに集中して、その後検討したいと回答した。円借款以外による支援として何か考えられないかとのJICA問いかけに対し、出産対応などコミュニティークリニックの整備・機能強化を検討したいとの返答がなされた。

企業展示

参加企業10社がブースを設営、主要製品紹介・特徴説明を個別実施した。展示製品への関心は非常に高く、各ブースで価格、現地代理店の確認を積極的に行った。特にモバイルエックスレイ、AED、PACSへの関心が強く、参加企業と活発な質疑が交わされた。KONICA MINOLTAブースでは、独自のバングラでの取り組みに関し、イスラム次官よりバングラデシュ政府を巻き込むよう強いアドバイスがあり、MOHFWの日本企業に対するサポート意欲・期待を強く感じた。



企業展示の様子

オフィシャルディナー

MOHFWと参加企業が終始リラックスした雰囲気の中で意見交換を実施。参加企業からは保健省高官とフランクに話せる環境を設けてもらったことに対し、感謝の言葉があった。

JICA ODAの画像診断センター設立プロジェクト入札を前に、日本の医療機器・システムメーカーの認知度向上を確実に行った。



オフィシャルディナーの様子

人間ドック体験と画像診断講義

胃透視を除く通常検診に胸部CTを加えたコースの受診体験し、健診に必要な全ての診断を1カ所で効率的に受けられる利便性を強く感じたとのこと。

また、三田病院画像診断部長より、疾患の早期発見・治療に対する画像診断の役割を説明。MOHFWからは、人間ドックの受診頻度、対象年齢、日本における費用負担の仕組みなどの質問を受け、人間ドックに関する基礎的な理解を与えた。RIS・PACS導入による診断効率、コストセービング効果についても触れ、PACSのITサポートの仕組み、早期導入可否など積極的な質疑が行われ、MOHFW関心の高さが伺われた。



講義の様子